

INTERVIEW 2 : PERFORMANCE « PENDULE REGULATRICE » :
インタビュー(2)「調整用の振り子」

発言者 : (Jean-Philippe Coulaud / Noosphere)

Q1 : 差動装置の調整システムを、金融界のメカニズムになぞらえるという発想はどのように生まれたのですか。

A : 差動システムは Pecqueur Conceptuals ブランドの旗印であり、単なる技術的パーツ以上の意味を持っています。かつてない効果的なアピールを追求した結果、「パフォーマンス(機能性)」が最もふさわしいと判断しました。

Q2 : 機能性をアピールする「調整式振り子」ですが、差動システムとしての働きについてお聞かせください。

A : 金融界に対するごく一般的なイメージを援用して、差動装置の働きを金融管理システム援用ツール、投機システムレギュレーターになぞらえています。

Q3 : 「調整式振り子」メカニズムをサポートする世界地図の意義と、ダイヤル周囲に配された国名についてお聞かせください。

A : 世界地図は、中世期の地図の複製です。幾世期におよぶ力関係の変遷が、勢力態勢自体を変革させたかもしれないという考えを象徴しています。国名は G8、G20 に名を連ねる国々で、世界の回転速度をつかさどる「G」の力をイメージしています。

Q4 : 「振り子時計」の巻き上げ装置が、人間の脳の形をしていることについてお聞かせください。

A : 人工知能とは異なり、人間の脳はメカニズムをプログラムし、調整する能力を有します。CCというイニシャルは、共通意識「CC (Conscience Collective)」と「センチメートルキューブ」をアナロジーで捉えています。大脳皮質には、ある種のムーブメントが有する「パワーリザーブ」機能があり、動力を測定する基準として機能します。

Q5: 人工知能に限界があるならば、「high frequency trading(超高速取り引き)」の示唆、トランスミッションのイメージを採用した理由についてお聞かせください。

A: われわれのバーチャルメカニズムにおける「high frequency trading(超高速取り引き)」は対義的に用いられ、旧式のトランスミッションとの比較においてイメージされています。旧式のギアボックスでは、運転者がクラッチで力関係を操作できましたが、今日の連続システムにおいては電子制御されています。

万が一、外的要因によって電子システムがオーバーランした際に、シンクロ状態を維持しながら適切な調整を行うには人間の介在が欠かせないことを伝えています。

Q6: なるほど、それではギアボックスのリバース「R」の文字が強調されているのはなぜでしょうか。

A: われわれの「調整振り子」が、人間の脳と同じ働きをするためです。脳による分析を経て解読された指示が、運動神経—四肢—に伝わって行為を生じさせます。同様に、ムーブメントへの働きかけによって、ダイヤルの針が正しく回転するよう処理されます。

「分析の後にバック」することを意味するリバースモードは、差動装置の調整システムにぴったりと呼応しています。

Q7: 星つきのヘルメットは、パフォーマンスとプロテクションを意味するものですか？

A: この場合プロテクションといえば、隔離が焦点となってきます。外界から遮断された脳の活動は、あらかじめフォーマットされたコード内で行われます。

アメリカンフットボールのヘルメットは、あらゆる衝撃に耐えうるプロテクションを象徴し、修正の可能性を示唆しています。星は、システムをつかさどる州大陸のカラーを表します。また星というシンボルによって、ひとつ旗のもとで力を合わせることを意味します。

Q8: よく耳にする「ストーリーテリング」ではなく、「パフォーマンステリング」という新しいコンセプトが用いられています。これについてお聞かせください。宣伝上の新しいコンセプトでしょうか。

A: コンセプト、という大仰なものではありません。かつてないムーブメントを通じ、差動システムの新解釈をアピールする、という意味合いです。新差動システムのキャッチコピー「ムーブメントのメカニックアート」にふさわしい、ひねりある効果的なコピーを追求しました。ブランドイメージの決定にあたり、「アーティスティックな機能性」は、もっともグローバルで、即自的なニーズに応えるものだと判断しました。これには、バーチャルな新製品キャンペーンから、12月の「マイアミアートバーゼル」展での公式発表までを一貫してカバーするという利点もあります。